

グルテンセットの沖打ち

●沖に着いたへら鮎を集中攻撃する爆釣バラケ

バラケ ダンゴの底釣り夏50cc+ペレ道50cc+天々100cc+水100cc+バラケマッハ200cc



●作り方/水を加えたら軽く数回かき混ぜ、最後に「バラケマッハ」を入れることでポソツとしたタッチに仕上げる。

くわせ 本グル50cc+水60cc



影響を受けるため、自分が振り込める最小のものを選びたい。
エサ打ちの基本は落とし込みだが、相手が大型だと1、2枚釣るといきなりアタリが切れる



●釣り方のコツ

沖に着いている良型や放流べらを18尺以上のサオでタナ1.5〜2.5mを狙う釣り方。ウキと穂先までの距離が長くなるので、エサ打ちはどうしても振り切り気味になる。

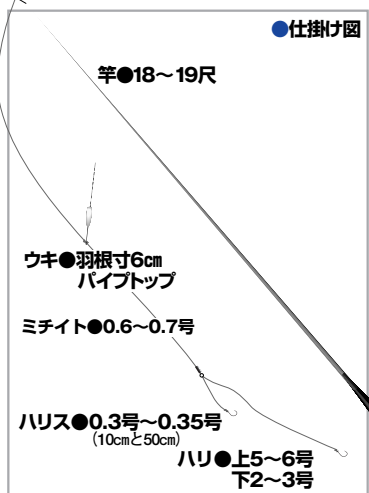
バラケが軽くて拡散するのはタナに集魚しにくくなるのでシットリとした重めのエサで狙うタナに集魚する。ウキは小さいものほどサワリが出やすくなるが、風や流れの影響を受ける

ことがある。1mほど沖に打ち、エサの落下にアクションを付けてサワリを維持する。へら鮎の寄りが多くなると落ち込みからアタリが出る場合がある。だがウワズったり、ヒネベラも寄るので、トップがなじんでのからのアタリに絞ることが大切だ。

時合によっては、下ハリスを長くしたほうがよいときもある。アタリが決まらなければ、サオの長さを換えて対応する。

■基本セッティング

サオは長いものほど効果があるが、打ち返すテンポが遅くなるのが難点。そのため18~19尺で早いリズムで打ち返していく。ウキは羽根寸6cmのパイブトップで、上がりがいいものを使用する。北風が強くなる時期なのでミチイトは細いものを選びたい。目安となるハリスの長さは10cmと50cm。アタリが多いわりにヒット率が悪ければ、5cmずつ短くする。



ここがポイント① アタリがなくなったとき

水温が低下するとタナが50cmずれただけでアタリは出ないものだ。ウキ下を(タナ) 30~50cmずつ換えてカラツンでもよいから鋭いアタリが出るタナを探る。バラケは手水を1回打ち、「スーパーダンゴ」ひと握りを加えてバラケ性を促進する。これをひと回り大きく角張らせてハリ付けする。これで効果がないときは、サオを2~3尺長いものと交換してさらに沖を狙うとよいだろう。



●エサの大きさ 実寸大

バラケ

バラケエサの大きさは直径2.5cmを標準とし、寄りが少ないときは角張らせ、アタリが多いときは、ひと回り小さく付ける。グルテンは、直径6~10mmで小さく丸く付ける。

①標準

②寄りが少ないとき

③アタリが多いとき

くわせ

グルテン
直径6~10mm

●オモリ 実寸大

0.25mmの
オモリ

15mm×17mm

0.25mm厚の板オモリで15mm×17mm程度を基準とし、動きを出すため極端にオモリ負荷が多いウキは好ましくない。ただし、小さすぎると流れや風の影響を受けるので注意したい。

ここがポイント② アタリがあるのに釣れないとき

落ち込みからなじんだ直後のアタリで、空振りになるときは、バラケに反応していることが多い。ポソから手水を1回打って、数回揉み込んだものを、ひと回り小さくエサ付ける。

なじんだトップが上がりかけてからのカラツンはグルテンが硬いか下ハリスが長すぎるのが原因。手を水に浸しグルテンの

上から水滴を垂らし、軟らかくしたものをパチンコ玉大にエサ付ける。同時に下ハリスを5cmずつ詰めて、決めアタリが出る場所を探っていく。

